

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社) 日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第 6 号 (2017 年 11 月 11 日発行)

下半期に入り、来年度の参加イベントの募集が多く集まりました。さらなる普及・発展のためにもご参加をお待ちしております。

●本号の内容

- ・オリエンテーリング日本代表チーム 2017 報告会の案内
- ・ナビゲーションゲームズ 2018 参加イベント募集
- ・世界一斉オリエンテーリングの日 参加イベント募集
- ・アジア O カップ 2018 シリーズ 参加イベント募集
- ・これからの講習会
- ・体育学会ランチョンセミナー報告
- ・業務執行理事・委員長会議 議事報告

●オリエンテーリング日本代表チーム 2017 報告会 (業務執行理事：木村佳司)

2017 年もオリエンテーリングの日本代表選手が世界各地で活躍しました。

その報告会を行います。

全日本スプリント大会 (長野県大町市) が終わった夜に同市内で開催します。翌日は同じ市内でクラブカップ 7 人リレーが行われます。

日時：2017 年 11 月 25 日 (土) 17:00-20:00

場所：大町商工会館 2F 大会議室 (長野県大町市)

<http://www.occj.jp/m-ryokin.php>

(JR 信濃大町駅より 800m)

駐車場：約 40 台

大会議室の収容人数：80 名

利用上の注意：禁煙、ゴミ持ち帰り

●ナビゲーションゲームズ 2018 参加イベント募集要項 (業務執行理事：木村佳司)

■ 趣旨 ■

ナビゲーションゲームズ 2018 を開催します。これは日本各地で開催される 30 程度のロゲイニング大会をシリーズ戦として統一的に広報します。これによって、ナビゲーションスポーツの普及を図り、アウトドア界や社会全般の安全・健康づくりに貢献することを狙いとします。

■ ナビゲーション・シリーズ参加の要件と決定 ■

ナビゲーションゲームズ 2018 のシリーズ戦として指定されるためには以下の要件を全て満たすことが必要です。

- ・所定の申請用紙で期限までに申請されたイベント。
- ・JOA の会員である各都道府県協会の主催、共催、後援、協力、推薦が得られるイベント。

(当該地域に会員が存在しない場合や、会員の活動が少ない場合には、この限りではありません)

・開催ガイドラインに沿ったイベント。

ナヴィゲーションゲームズ 2018 は、30 大会程度とします。

応募された中から検討の上、大会を決定します。決定にあたっては、地域的な分散、過去の開催状況と同時に新しいレースの支援などを考慮します。

■ 今後のスケジュール ■

2017 年 12 月末日 イベントエントリー (エントリー用紙参照)

2018 年 1 月上旬 必要に応じてメールにてヒアリング

2018 年 1 月中旬 必要に応じて選考、スポンサー交渉

2018 年 1 月下旬 要項公表・フライヤー配布

詳細は以下の URL をご覧ください。

http://www.orienteering.or.jp/archives/2017/1005_2018.php

●世界一斉オリエンテーリングの日 参加イベント募集要項 (業務執行理事：木村佳司)

ギネス記録を目指して「世界一斉オリエンテーリングの日」

国際オリエンテーリング連盟 (IOF) が主催するワールドオリエンテーリングディ 2018 が 5 月 23 日に開催されます。

5 月 23 日にオリエンテーリングを行う団体は以下の URL から登録をお願いします。

<http://worldorienteeringday.com/>

2017 年のワールドオリエンテーリングディは 5 月 24 日に行われ 28 万 8 千人が参加しました。

●アジア O カップ 2018 シリーズ 参加イベント募集 (国際委員会：落合公也)

前号で報告のアジアワーキンググループミーティングにて、2018 年にアジア O カップが開催されることになりました。

フット 0 のうちワールドランキングイベント (WRE) として登録されたロング・ミドル・スプリントが対象となり、少なくとも年間 6 戦行いその 1 戦以上を日本での開催とすることが期待されています。

日本での開催は、日本選手の世界ランキングを上げるために有効でもありますので、ご協力いただける大会を募集しています。WRE 登録の締め切りは 2018 年 1 月 1 日 (ただし 2017 年 12 月 1 日以降は遅れエントリー扱い) ですので、ご検討のほどよろしく願いいたします。

●これからの講習会等

詳細は <http://www.orienteering.or.jp/event/> をご覧ください。

11/18-19 コントローラ資格認定・更新講習会 (埼玉県スポーツ総合センター)

12/8-10 IOF アジアトレイル O イベントアドバイザークリニック (香港)

ディレクター、コントローラー有資格者向け。締め切り：11/25

※詳細はお問い合わせください。

12/9-10 インストラクタ養成講習会 (徳島県)

●日本体育学会ランチョンセミナー報告（松澤俊行）

9月10日（日）、静岡大学で開催された日本体育学会の昼休み、「キャンパスでできるオリエンテーリング」をテーマとしたセミナーが実施された。学会参加中の大学教員や学生が昼食を取りながら、司会村越真、演者松澤俊行のコンビによる進行の講座に聴き入った。この食事券（弁当）付きのセミナーの定員は40名。朝の受付開始後すぐに定員は埋まったという。「弁当なしでも良いので聴きたい」という参加者も若干名加わって、教室は熱気に包まれた。

松澤自身、短大教員として体育の授業を担当し、毎年学生にオリエンテーリングを教えている。この日の講座でも「手間を掛けず、日常の授業の中で行える」という条件に合うプログラム例を複数紹介し、10分ほどで回れるフォトロゲイニング形式の体験コースも会場周辺に用意した。質疑応答の時間には、具体的な進行方法や学生の反応に関して掘り下げる質問もあり、オリエンテーリングへの関心の高さと潜在的な需要が感じられた。次の課題は、実践を本格的に検討している層に、設営と指導のポイントを解説することであろう。

（日本体育学会は、日本の体育関係者、とりわけ大学の体育研究者・実践者が参加する日本最大の学会で、会員約8000人、当日参加者だけでも2000人に上る大きな学会です。当協会の山西哲郎会長も、前会長を務められていました。）

▼大教室を利用したので閑散と見えますが、定員は40名でしたので、「満員御礼」でした。



● 業務執行理事・委員長会議 議事報告（副会長：村越）

2017年9月3日：東京海洋大学品川キャンパス 10時～16時

出席者：山西、村越、平島、木村、藤井、高村、尾上、佐藤、中村弘、吉村、柴田、羽鳥、落合、小野、広江

1. 背景

業務執行理事はJOAの日常的な業務の執行に責任を持つ理事で、現在6名です。業務の執行の連絡調整をする場として、主としてスカイプ利用による会議を二月に1回程度開催していますが、今回は各領域での実務を担う委員長の方々と合同での会議を持ちました。

昨年度の財政改革に会員、登録者に多大な協力をいただいたお陰で、財政的には組織の基盤が

整いました。今後もそれを確かなものにするよう努力は必要ですが、地域の活性化や会員支援への財源もある程度得られました。今回は特にこの点に焦点をあて、①業務執行理事と委員長（間）の情報共有を促進すること、②短期中期的（概ね3年程度）の活性化のための活動についての具体的な議論を行うこと、③中長期的な展望についての意見交換をすること、を目的に実施されました。

現在 JOA の登録人口はほぼ横ばいで、社会人登録者に関しては微減となっています。一方、会員（都道府県協会）の退会など、地方活性化の必要性は喫緊の課題です。委員会が担当すべきことと事務局が担当すべきことの調整をすることで、より効率的に委員会活動が推進できること、あるいは新たな課題への対応のための倫理、女性委員会が設置されたこと、JOA の指導員制度から日本体育協会の指導員制度への移行検討など、委員会のミッションを再整理すべき状況も生まれました。業務執行理事と委員長の情報共有によって、こうした新たなフェーズにおける活性化の方策についての議論を行いました。

2. 議題

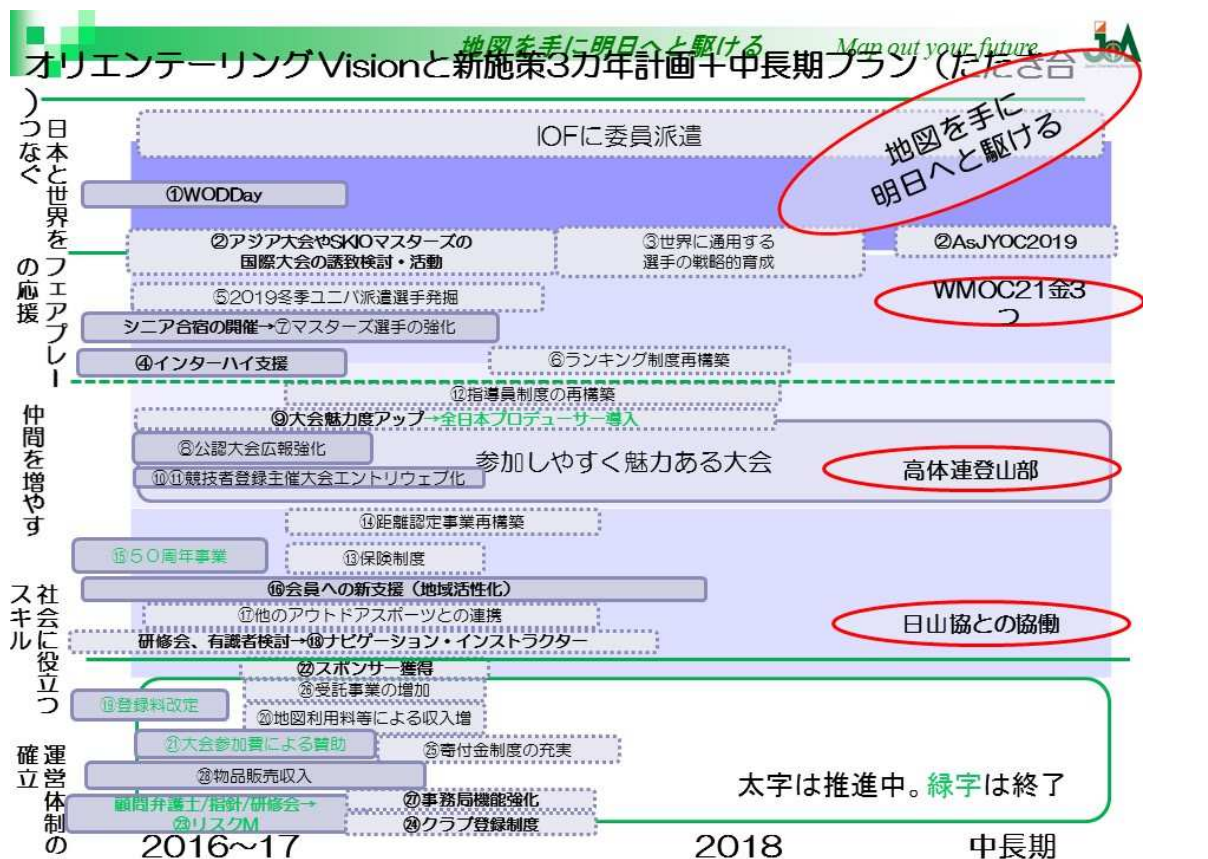
議題と主な議論の内容は以下のとおりです。

1) 年間行事予定について

年間の行事、定常的な会議日程について確認しました。また、来年度に向けての事業計画や予算の立案についての日程の目安も示されました。今後11月に、業務執行理事連絡会（来期の事業方針決定、事業計画立案開始、JOA 表彰の決定）、1月に業務執行理事連絡会（理事会に向けて：予算、事業計画の決定）、2月下旬に理事会（事業計画、予算案承認）が行われます。

2) 新施策3カ年プランについて（村越）

JOA の施策を進めるワーキングプランである同プランの進捗状況を示しました（図参照）。



3) 各委員会の活動について

各委員長より以下のように委員会の活動概要の紹介がありました。

① WMG 2021 準備委員会 (平島)

大会の日程、開催場所等について紹介した。

② 全日本実行委員会 (木村)

900 名近い参加があり、参加者からは好評価であったが、採算に関しては若干の赤字（恵まれている条件にもかかわらず）であった。全日本を独立採算で実施することは難しいという見方が示された。社会人層への値上げをせざるを得ない。2019-2020 年のプロデューサーの募集を行う予定。

③ 強化委員会 (藤井)

世界選手権、ジュニア世界選手権、WG、AsJYOC についての報告がなされた。来年はユニバーとアジア選手権がある。また、AsJYOC に帯同した国沢氏から、レースの報告と強化への提言があった。競技面では、アンフェアな状況がスプリントで見られたので、それについては協会としてなんらかのアピールが必要ではないかという意見もあった。

④ 普及教育 (佐藤)

指導員等については、後に独立したトピックで話題にする。制度的な疲弊感があり、組み替えが必要。100km コンペは地道にやっている。

⑤ 地図 (中村弘)

ISOM2017 への対応を進めている。8 月 JOA サイトに「ISOM2017 日本語版」「日本国内における地図図式規定についての指針」を掲載した。指針の概要は、日本独自の図式規程を制定せず、ISOM2017 日本語版を「日本オリエンテーリング地図図式」として使用する。当面は JSOM2007 準拠の地図も認める。いずれに準拠したものは明示する。用語の使い方や、ISOM2017 日本語版を日本オリエンテーリング地図図式とすることについては、理事会承認は必要であろう。OCAD 用の記号セットは、CAMap 研究会サイトで公開されている。

⑥ トレイル O (吉村)

世界選手権報告があった。フリーよりはテンポの方が成績がよかった。コース等の展示・報告会を行っている。11月に全日本トレイル開催、その後の進め方については課題がある。

⑦ 競技 (広江)

先週コントローラー講習会開催実施。11月にも開催する。IOF の競技規則の改定に合わせて、2017 版和訳は h p にあげた。関西講習の受講者が 10 人に留まった。ポジティブに取得しようとする人が少ないのは課題であり、対応は必要。

⑧ スキー (柴田)

2019 年のスキー O 世界学生選手権への立候補は辞退した。FISU レギュレーションによる予算確保が難点だった。FISU からも打診があったが、結果としては辞退となった。

⑨ MTB (羽鳥)

世界選手権への参加報告があった。

⑩ AD (落合)

全日本大会でのドーピング検査をおこなった。選手向け講習会を強化合宿と AsJYOC 対象に行った。また啓発活動をジュニアチャンピオン大会で行った。

⑪国際（落合）

AsOC,AsJYOC などの規程改正、AsJYOC2019 の開催決定。アジアオリエンテーリングカップ 2018 の開催について報告があった。アジア選手権は 2020 に韓国が開催検討。2022 については一言も言及なかった。

⑫総務（小野）

年度事業計画に沿って、寄附金募集活動、ツイッター、フェイスブックなどによる情報発信や年鑑の編集を実施中である。

⑬女性（高野）

組織的なことはできていないが、通称女子合宿の 2 回開催。女子向け報告会の開催。活動を広げる上でどうするかは課題である。

⑭事務局体制

マンパワーの強化を図った。利光恵美さん（広報、データ処理：登録、ランキング関係担当）、上松典子さん（庶務担当）、他、アルバイトを使い地図資料のデジタル化を推進している。清水由布子さん小野賢二さん、濱宇津さん、高村卓事務局長これまでとおり。東京五輪に伴う岸記念体育会館の移転については 2019 予定だが、具体的な話はまだ出ていない。

日本 WG 協会に加盟してほしいという要請があった旨の報告があった。

4) 活性化事業について（村越）

地域の活性化のプランについて、理事から提案のあった個々の案について意見交換した。予算の掛からないものは積極的に実施し、予算を使うものについては十分に精査して実施する。投資が必要なものと、効果が得られるものとを分離して考える。講習会については基本は採算ベースとし、人材派遣のための交通費・謝金の支援を行うことを前提に考える。2019 鹿児島での国体デモスポなどをにらんでの支援を進めてはどうかという意見があった。

これらの事業の中で講習会については、委員会のリソースがどう活用できるかについて意見交換した。

5) 指導員制度等の移行・ナビゲーションインストラクターについて

指導員精度の移行の枠組みについての紹介があった（Direction2017/9 号に掲載済み）。また一般へのナビゲーションスキルの指導ができるナビゲーション・インストラクターの制度についても紹介があった。

7) 今後の国際大会について

- ・2019 年には AsJYOC 開催を引き受けた。現在運営主体を募集中。
- ・AsOC については 2020 年を韓国が考えているので、2022 以降で検討する。
- ・Asia O Cup（2018：香港 2 レース、中国 6 レース、台湾 1 レース？。日本でも 1 レースを期待されている）で、アジアのエリート選手のプレゼンスを高めることが、香港のドミニク氏からの提案で進められている。

4. その他

- ・公認大会の在り方提案について西村徳真氏より提案があった件について、意見交換した。